

# 青森県内で検出された「畠跡」について

—南郷村砂子遺跡の資料整理にあたって—

木村 鐵次郎

## 1 砂子遺跡について

1995年5月から8月にかけて三戸郡南郷村砂子遺跡を発掘調査し、かなりの面積の畠跡を検出することができた。これから報告書作成のための整理作業を進めるにあたり、青森県内の畠跡及び関連する遺構について一通り整理してみたいと思う。

砂子遺跡は、岩手県北に源を発し八戸市で太平洋に流れる新井田川右岸の低位河岸段丘上に立地し、青森県三戸郡南郷村大字島守字下世増に所在する。遺跡の調査は、八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴うもので、1995年に試掘調査がなされ、畝状遺構と皿状の土坑が検出された。それらの記録保存を図るため、1997年5月から8月まで発掘調査を実施した。当初、5,000m<sup>2</sup>の調査を予定していたが、畝状遺構の検出の拡大とともに約15,000m<sup>2</sup>の面積を調査し、検出した畝状遺構の面積は概算で約3,000m<sup>2</sup>に上る。また、皿状の土坑と捉えたものは、実際は埋もれきらない平安時代の竪穴住居跡であることがわかり、畝状遺構の営まれていた時代には既に平安時代の集落が埋もれていたわけである。この平安時代の集落は1998年度に改めて発掘調査される予定である。

砂子遺跡の畝状遺構は、畝と畝間をもつもので、その性格として畠跡であることが明瞭なものと観察されるものであった。

## 2 「畠」と「畑」について

辞書で「はたけ」をみれば「畠」と「畑」という2つの字がみえ、どちらも同じ意味である。

諸橋轍次の『大漢和辞典』によると

畑—国字。水田の対。草を焼いて開墾した陸田。乾田の義、畠ともかく。

畠—国字。白と田の合字。白は水無く乾いている意で、乾田の義とする。畑に同じ。

とあり、共に漢字ではなく国字であることわかる。同じく乾田の義であり、意味的に差はないようと思われる。「畑」は開墾のさいに草木を焼くことからきたものであろうし、「畠」は耕作時の状況を現しているように思われる。

現在では、「畑」の字を用いることの方が一般的と思われるが、歴史的にみるとどうなるのか。吉川弘文館『国史大辞典』「田畠」の項では、「字の作られた経緯からもその使用は本来的には区別されていたようであるが、中世末期に次第に混用されるようになり、近世初期になると「畑」と「畠」の字の区別はなされなくなり、「畑」の方が検地帳などで一般的になった。・・・焼畑は常畠化が可能であれば畠地化され、畠地は灌漑条件が整えば水田化されていったし、水田も乾田化の方向に進行した」とみえる。

これからみれば、発掘調査で検出される「畠跡」関連の遺構の性格を示すとき、焼畑が語源となる「畑」より水田と対比する形状を示す「畠」の語を使用した方が適切ではないかと思われる。よって、今後「畠」の語を使用していきたいものと考えている。

## 3 青森県内の畠跡関連遺構検出例

青森県内で検出された畠跡に関連する遺構の検出された例は、14遺跡に上る。最も古い調査例で

も1994年の野尻（4）遺跡・往来ノ上（1）遺跡・中野平遺跡の3遺跡、1996年の隠川（4）・（12）遺跡、残りの8遺跡は本年度の1997年というように、畠跡関連遺構検出例はここ数年のものである。

分布をみると、津軽地方に7例、県南地方に7例というように下北半島を除いてほとんど全県的に分布しているといえる。下北地方にまだ例をみるのは開発に伴う調査数の少なさに關係するものと思われる。

遺構の年代観からみると、最も古いもので10世紀前葉が中野平遺跡の1遺跡、10世紀前半が5遺跡、15・16世紀頃が2遺跡、17世紀頃が1遺跡である。平安時代が9遺跡、中世が2遺跡、近世が1遺跡というようになっている。

検出状況では、10世紀前葉は十和田a火山灰、10世紀前半となっているのは白頭山苦小牧火山灰ないしは十和田aか白頭山苦小牧かのどちらかに覆われている例である。砂子遺跡は川の氾濫による土砂の堆積による埋没した例、他は堆積土の違いなどで検出されたものである。

#### 4 遺構の名称について

「並列溝状遺構」は、隠川（4）・（12）遺跡のみで使用される。

「耕作遺構」は、貝ノ口遺跡のみで使用される。

「畠状遺構」は、8遺跡で見られ、用語としては最も多く使用されている。

「畠跡」（「畠跡」）を使用しているのは、中野平遺跡・砂子遺跡・十三湊遺跡であるが、報告書が刊行されて使用しているのは中野平遺跡のみである。

これらの遺構の名称は、その検出状況によることが大きい。

①「並列溝状遺構」は等間隔に並列する溝が検出されたことからの名称（注1）であり、畠跡の関連遺構という観点では、畠は後世の削平によって存在しないか、あるいは極めて類似する土壤のために畠が確認できず、畠間（畠と畠の間の溝状に壅んだものを呼称する）だけが検出されたものという捉え方がなされる。

②「耕作遺構」は、その残された遺構が耕作によって残されたものであるとすれば、「耕作遺構」＝「畠跡」を指すものではないだろうか。形状を呼称するのに「耕作」という機能論的な用語を用いており、使用する用語としてはやや不適切ではないかと思われる。

③「畠状遺構」は、畠と畠間がともに検出されたものと捉えることができよう。しかし、畠間と考えられる溝だけの存在で「畠状遺構」を使用していないか、より厳密に検証してみる必要がありそうである。

④「畠跡」は、畠状遺構がある程度の範囲にわたって面的に認められ、「畠跡」として捉えられる面に対して使用する。

#### 5 今後の問題点

##### ①用語と形状について

青森県内での畠跡関連遺構の名称としては、現在「並列溝状遺構」「耕作遺構」「畠状遺構」「畠跡」の各用語が使用されている。しかし、用語の使用を考える際に形状から呼称する場合は、正確に形状を説明しうる用語を用いるべきと考える。畠間と思われる溝だけの把握からは「畠状遺構」を用いるべきではないし、形状を呼称するのに機能を示す用語を用いるべきではないと思う。

畠跡関連遺構を呼称する場合は、その形状から並列する溝だけの場合「並列溝状遺構」、畠と畠間

が検出された場合「畠状遺構」、畠と畠間に面的に把握され畠跡と捉えられる場合「畠跡」というように段階的に呼称した方が適切ではないかと考える。

### ②時代について

畠跡に限らず、生産遺構が検出されるのは何らかの理由により、その生産活動がストップし、その段階での形状を留めるものである。その多くは、自然的な災害によることが多いのは、十和田湖あるいは白頭山苦小牧の火山灰による検出例、洪水による土砂堆積、ということからもいえよう。

火山灰による年代の決定は、その火山灰の年代がおおよそ確定しており、どの火山灰か同定されているならば比較的容易に年代的位置づけが決定されるが、それ以外は年代の決定には困難なものがある。元来、生産遺構は遺物を伴うことが少ないものであるが、畠跡にもそのことは当てはまる。そのことから、その数少ない出土遺物、出土状況、他の遺構との重複関係等から総合して把握していくなければならない。

### ③栽培作物について

畠跡と認められたとしても、その栽培された作物を知ることは考古学的にはほとんど不可能に近く、自然科学的な方法に頼らざるを得ない面がある。現在のところ、自然科学的な方法にはプラントオパール分析・花粉分析・種実分析等が実施されているが、なかなか決め手になりうる成果が認められる例は少ない。今後ともいろいろな方法・手段を追求する必要があろう。なお、資料の採取のさいは後世の影響がないことを厳密に確認する必要があることはいうまでもない。

**注1** 隠川（4）・（12）遺跡の調査担当者である木村高氏による呼称である。平成8年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会レジュメでは「連続溝状遺構」という呼称を用いたが、「連続」では横に連続するのか、縦に連続するのか明確でないということで、横に連続するということから平成9年度刊行の報告書では「並列溝状遺構」を使用することである。

## 参考文献

- 青森県教委1996 『野尻（4）遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書186  
青森県教委1997 「平成9年度十三湊遺跡現地説明会資料」  
鰺ヶ沢町教委1997 「平成9年度種里城址発掘調査現地説明会資料」  
遠藤正夫1997 「青森県における農耕関連遺構の現況と課題」第7回東日本の水田跡を考える会資料集  
七戸町教委1997 『貝ノ口遺跡V』七戸町埋蔵文化財調査報告書19  
下田町教委1996 『中野平遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書7  
東北町教委1996 『往来ノ上（1）遺跡』東北町埋蔵文化財調査報告書6  
八戸市教委1997 「平成9年度新井田古館現地説明会資料」

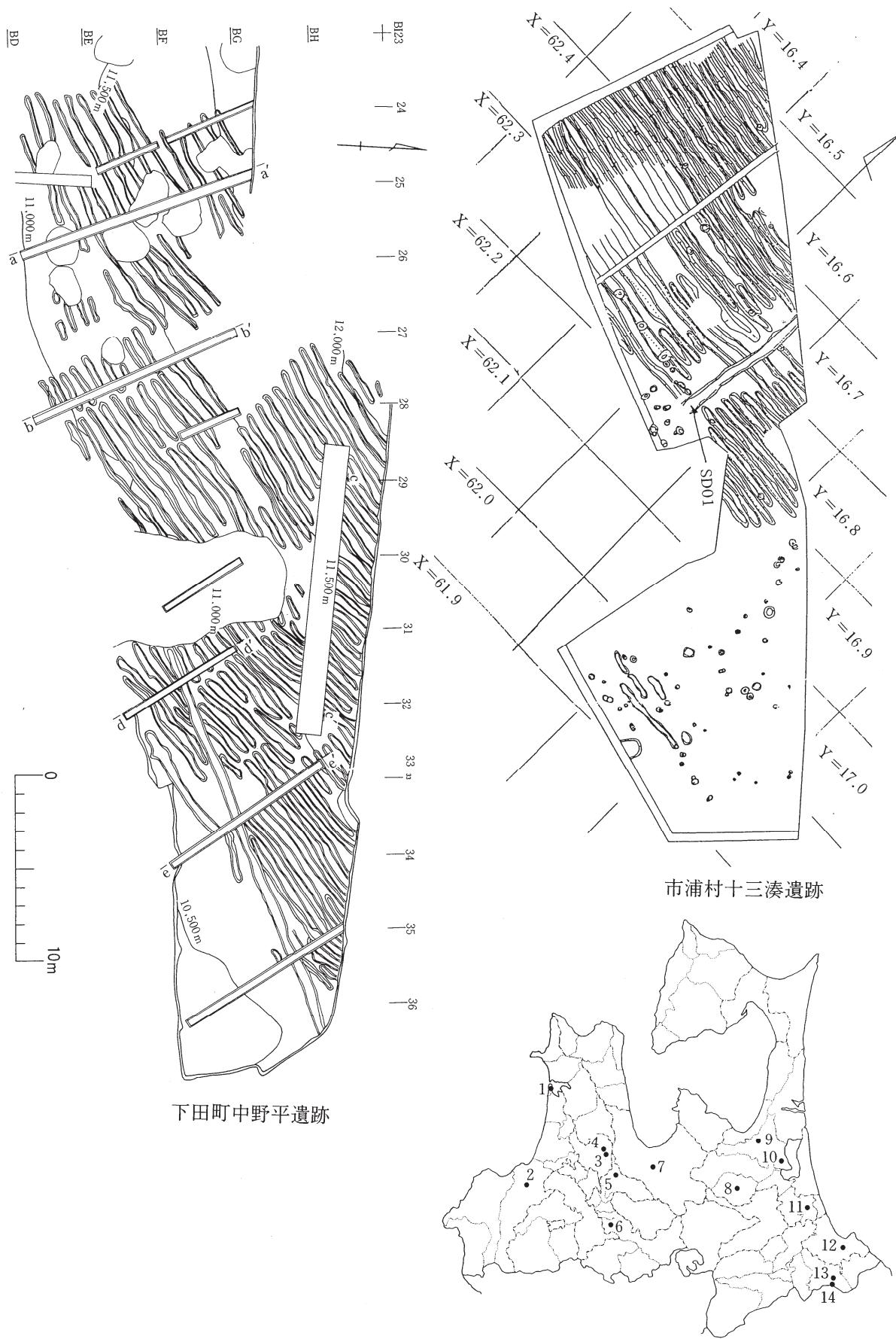


図1 青森県内の畠跡関連遺構例（1）

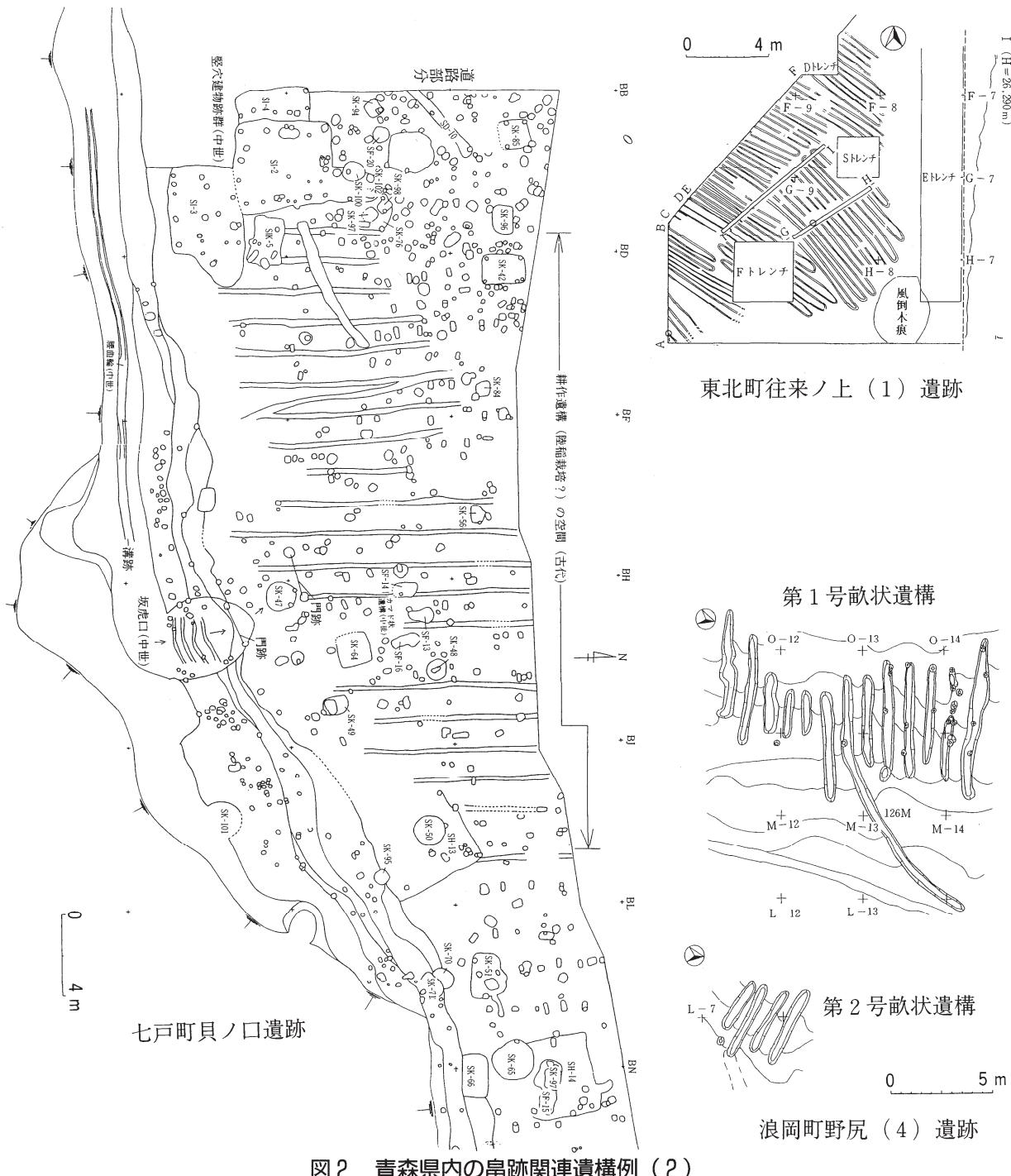


図2 青森県内の畠跡関連遺構例 (2)

表 青森県における畠跡関連遺構検出遺跡

番号	遺 跡 名	遺 構 名 称	所 在 地	調査年	時 代	備 考
1	十三湊遺跡	畠跡	北津軽郡市浦村十三字琴湖岳	1997	15世紀前半?	
2	種里城跡	畠状遺構	西津軽郡鰯ヶ沢町大字種里町	1997	15・16世紀?	
3	隠川(4)遺跡	並列溝状遺構	五所川原市大字持子沢字隠川	1996	10世紀前半	
4	隠川(12)遺跡	並列溝状遺構	五所川原市大字持子沢字隠川	1996	10世紀前半	
5	野尻(4)遺跡	畠状遺構	南津軽郡浪岡町高屋敷字野尻	1994	10世紀前半	
6	大光寺新城跡	畠状遺構	南津軽郡平賀町大光寺字三村井	1997	17世紀?	
7	野木遺跡	畠状遺構	青森市合子沢字松森	1997	10世紀前半	
8	貝ノ口遺跡	耕作遺構	上北郡七戸町字貝ノ口	1996	平安時代	
9	空久保(4)遺跡	畠状遺構	上北郡東北町字空久保	1997	平安時代?	
10	往来ノ上(1)遺跡	畠状遺構	上北郡東北町字往来ノ上	1994	10世紀前半	
11	中野平遺跡	畠跡	上北郡下田町中野平	1994	10世紀前葉	
12	新井田古館遺跡	畠状遺構	八戸市新井田字古館	1997	平安時代?	
13	砂子遺跡	畠跡	三戸郡南郷村島守字下世増	1995・7	中・近世	
14	畠内遺跡	畠状遺構	三戸郡南郷村島守字畠内	1997	10世紀前半	